

# 総会報告

## 第 23 回通常総会報告

日 時：平成 17 年 3 月 9 日(水) 13 時 30 分～14 時 30 分

会 場：本郷瀬川ビル(東京都文京区本郷 2 35 10)

出席社員数：91 名(内委任状 60 名)

(社員数総数：95, 総会成立の定数 48 名以上)

議 案：

- (1) 平成 16 年度事業報告[第 1 号議案]
- (2) 平成 16 年度収支決算書報告[第 2 号議案]
- (3) 平成 17 年度事業計画[第 3 号議案]
- (4) 平成 17 年度収支予算[第 4 号議案]
- (5) 個人会員除名処分の件[第 5 号議案]
- (6) 平成 17 年度役員の内[第 6 号議案]
- (7) 平成 17 年度評議員の内[第 7 号議案]

議 事：

午後 1 時 30 分, 定款第 24 号に基づき吉川恒夫会長が議長となり, 出席者が定款 26 条に定める定足数に達しているとの旨報告の上, 第 23 回通常総会の開会を宣した。

次いで, 以下の各議案について提案および詳細な説明があり, 逐次審議を行った結果, いずれも原案どおり異議なく可決された。

各議案の内容は以下のとおり。

### 【第 1 号議案】

平成 16 年度 事業 報 告  
(自平成 16 年 1 月 1 日 至平成 16 年 12 月 31 日)

I 庶 務

1. 会員状況

(平成 16 年 12 月 31 日現在)		(平成 15 年 12 月 31 日現在)		増減
名誉会員	6 名	7 名	1 名減	
正 会 員	2,940 名	2,945 名	5 名減	
学生会員	1,081 名	1,084 名	3 名減	
賛助会員	67 団体(97 口)	69 団体(99 口)	2 団体減 (2 口減)	

2. 第 22 回総会

会 期：平成 16 年 3 月 10 日(水)

会 場：本郷瀬川ビル

出席社員数：93 名(うち委任状提出：70 名)

(正社員総数：101 名, 総会成立の定数 52 名以上)

議 題：平成 15 年度の事業・決算案, 平成 16 年度の事業計画・予算案, 個人会員除名処分, 理事・幹事の選任の件, 評議員の選任の件

上記について審議し, 議決した。

3. シンポジウム, 講習会等の主催, 共催, 協賛, 後援(定款第 5 条 1 号, 5 号)

- (1) シンポジウム, 講演会, 講習会等 5 件を主催した。
- (2) シンポジウム, 国際会議, 講習会, コンテスト等 15 件を共催した。
- (3) シンポジウム, 国際会議, 講演会, 講習会, 展示会, 研究会等 85 件を協賛した。
- (4) シンポジウム, 国際会議, 講習会, コンテスト, 展示会等 13 件を後援・協力した。

4. 委員会

下記の委員会を開催した。

- (1) 会誌編集委員会 (委員長：生田幸士)

- (2) 欧文誌委員会 (委員長：神徳徹雄)
- (3) 事業計画委員会 (委員長：高信英明)
- (4) 国際委員会 (委員長：中内 靖)
- (5) 第 22 回学術講演会実行委員会 (委員長：谷 和男)
- (6) 第 18 回論文賞選考委員会 (委員長：内山 隆)
- (7) 第 19 回研究奨励賞選考委員会 (委員長：中野榮二)
- (8) 第 9 回実用化技術賞選考委員会 (委員長：中野榮二)
- (9) 出版事業委員会 (委員長：久保田孝)
- (10) ロボット工学ハンドブック改定委員会 (委員長：増田良介)
- (11) 電子化運営委員会 (委員長：中野榮二)
- (12) 国際化検討委員会 (委員長：内山 隆)
- (13) アドバイザリーボード (委員長：吉川恒夫)
- (14) 将来ビジョン策定委員会 (委員長：吉川恒夫)

5. 役員および評議員の選出

平成 16 年度の理事・監事ならびに評議員を選出した。

6. 評議員会, 理事会

- (1) 平成 16 年 9 月 15 日(水)に第 22 回評議員会を開催し, 会務報告と評議を行った。
- (2) 平成 16 年度中に 10 回理事会を開催し, 会務の審理と処理を行った。

7. フェロー, 名誉会員の選任

8 名のフェローを選任した。

8. 電子化運営委員会

- (1) ロボット学会ホームページの運用体制を強化した。
- (2) Web 上で行える会員サービスの充実を図った。
- (3) ロボット学会イントラネットの運用を開始した。

9. 事務局

- (1) 事務局体制小委員会を定期的に開催し, 中長期的な事務局体制について検討した。
- (2) 事務局連絡会を月 1 度の頻度で開催し, 事務局内の運営の円滑化を図った。
- (3) 電子化運営委員会と連携し, 会員サービスとして各種関連行事案内を推進した。

II 事 業(定款第 5 条 1 号)

1. 学術講演会・シンポジウム等

(1) 第 22 回学術講演会

期 日：2004 年 9 月 15 日(水)～17 日(金)

会 場：岐阜大学柳戸キャンパス

組 織：実行委員長：谷 和男(岐阜大学)  
プログラム委員長：川崎晴久(岐阜大学)

発表件数：531 件

12 バラレルセッション

一般セッション：56 セッション

オーガナイズドセッション：14 セッション

合計 70 セッション

特別講演会：講師 柳田敏雄氏

テーマ「熱ゆらぎを利用する生物分子機械」

特別企画：講演と意見交換「産業界からみた今後のロボット研究会への期待」

講師：吉川恒夫, 田中雅人, 石田健蔵, 鎌倉晴久

参加登録者数：1,031 名

(正会員 550 名, 学生会員 391 名, 非会員 25 名, 学生非会員 63 名, 招待者 2 名)

(2) 文科省科研費補助金・研究成果公開発表事業

ロボットシンポジウム「地球に貢献するロボット技術」

期 日：2004 年 9 月 18 日(土)

会 場：岐阜県テクノプラザ

内 容：講演会およびロボット技術の展示・実演

参加者数：講演会 174 名，展示 500 名

## 2. ロボット工学セミナー

### (1) 第26回シンポジウム「ロボットの作り方 実用への道」

期 日：2004年5月28日(金)  
会 場：東京工業大学大岡山キャンパス  
講 師：広瀬茂男(東京工業大学)，水川 真(芝浦工業大学)，橋本浩一(東北大学)，高梨伸彰(NEC)  
オーガナイザ：福島 E. 文彦(東京工業大学)  
参 加 者：73名(会員：27名，会員外：12名，学生：34名)

### (2) 第27回シンポジウム「人とロボットの交差点 ロボットデザイン」

期 日：2004年7月9日(金)  
会 場：工学院大学  
講 師：長田純一(NEC デザイン)，松井龍哉(フラワー・ロボティクス)，五十棲隆勝(川田工業)，出淵裕(デザイナー)，高西淳夫(早稲田大学)  
オーガナイザ：河合俊和(日立製作所)

参 加 者：41名(会員：27名，会員外：6名，学生：8名)

### (3) 第28回シンポジウム「レスキューの現状と将来」

期 日：2004年11月19日(金)  
会 場：工学院大学  
講 師：菅野見一(総務省消防庁)，山海嘉之(筑波大学)，角本 繁(防災科学技術研究所)，本田 憲(ジャパンケンネルクラブ)，松野文俊(電気通信大学)  
オーガナイザ：内田康之(防衛庁技術研究本部)

参 加 者：27名(会員：16名，会員外：4名，学生：7名)

## 3. 共催事業

### (1) 第9回ロボティクスシンポジウム

期 日：2004年3月8日(月)～9日(火)  
会 場：メルパルク沖縄(那覇市)  
実行委員長：横井一仁((独)産業技術総合研究所知能システム研究部門)  
プログラム委員長：大隈 久(中央大学理工学部精密機械工学科)

発表件数：4パラレルセッション 95件  
参加者数：184名

### (2) ロボカップジャパンオープン2004 大阪

期 日：2004年5月1日(土)～4日(火)  
会 場：インテックス大阪(大阪市住之江区)  
主 催：NPO ロボカップ日本委員会，ロボカップ大阪大会開催委員会，財団法人自治総合センター  
実行委員長：松原 仁(公立はこだて未来大学)  
日本ロボット学会賞：Jolly Pochie(九州大学大学院)，五輪の会 C Silf H2(井藤功久)

日本ロボット学会賞：Jolly Pochie(九州大学大学院)，五輪の会 C Silf H2(井藤功久)

### (3) 第16回知能ロボットコンテスト・フェスティバル

期 日：2004年6月26日(土)～27日(日)  
会 場：仙台市科学館(仙台市青葉区)  
主 催：ロボット競技会実行委員会，メカトロで遊ぶ会  
実行委員長：中野榮二(東北大学)  
日本ロボット学会会長賞：川村 聡(V CONSTANT)

### (4) 第4回レスキューロボットコンテスト

期 日：2004年8月6日(金)～8日(日)  
会 場：神戸サンポーホール(神戸市)  
主 催：レスキューロボットコンテスト実行委員会，神戸市，読売新聞大阪本社，読売テレビ  
実行委員長：升谷保博(大阪大学)  
日本ロボット学会賞(ベストロボット賞)：レスキューロボット1号機『桂』(K.U.M.C. 津山工業高等専門学校)

日本ロボット学会賞(ベストロボット賞)：レスキューロボット1号機『桂』(K.U.M.C. 津山工業高等専門学校)

## 4. 出版事業

「新版ロボット工学ハンドブック」の修正原稿を回収し，編集作業および校正を行った。2005年5月発行予定となった。また2005年は会員名簿発行の年であり，名簿編集委員会を組織し，2005年9月発行を目

標に準備を進めた。

## III 学 会 誌(定款第5条2号)

学会誌第22巻1号より8号を発行し，会員に配布した。各号の特集テーマは次の通りである。

第22巻1号	HRPの成果と人間型ロボットの今後の展開	147頁
第22巻2号	ロボットの運動学習	132頁
第22巻3号	ロボットと知的財産	141頁
第22巻4号	メディカルロボティクス	120頁
第22巻5号	大都市大震災軽減化特別プロジェクト	147頁
第22巻6号	水中ロボティクス	124頁
第22巻7号	ロボットシティ	138頁
第22巻8号	ロボットデザイン	140頁

平成16年度は，昨年度に引続き，会誌編集プロセス，査読プロセスの見直しを行い，それぞれの作業の効率化，安定化を進めた。会誌編集における特集企画も順調に進めており，1年先まで他誌にはないユニークな特集案も企画中である。また論文査読プロセスについては，昨年度に引続き，抜本的な改革に向け，課題などに関する議論を行った。新査読小委員会委員長を含む委員会で，次年度実施に向けて議論を詰め，具体的な体制作り，規定類の整備を行っている。

採録決定後，会誌掲載までの待ち時間が長いという問題に対しては，2004年度から1号当たりの掲載論文数を大幅に増加させ，論文投稿から掲載までのトータルの所要期間を短縮する対策を実施している。

また電子化運営委員会との連携を強化し，すでにインターネット Web 上で投稿論文の査読進捗状況を確認できるシステムの運用を開始した。また，バナー広告の次年度の実施に向け，運用など，システムの具体的な検討を行った。

前年度から，特集号の表紙作成に関してボランティアベースでデザイナーの編集委員の協力を得ている。編集委員会で検討した結果，第22巻以降の表紙が各特集に合致した統一的なデザインになった。

## IV 欧 文 誌(定款第5条2号)

### 1. 欧文誌編集・発行

Vol. 18 を発行した。各号の詳細は以下の通りである。

No. 1	04. 1	発行済み	一般論文
No. 2	04. 3	発行済み	Service Robots in Space ( 1 )
No. 3	04. 4	発行済み	一般論文・Service Robots in Space ( 2 )
No. 4	04. 5	発行済み	一般論文
No. 5	04. 6	発行済み	Assistive Robots
No. 6	04. 7	発行済み	一般論文
No. 7	04. 8	発行済み	一般論文・RoboCup Humanoids
No. 8	04. 9	発行済み	Selected Papers from ICAR 2003
No. 9	04. 10	発行済み	一般論文
No. 10	04. 11	発行済み	Selected Papers from IROS 2003

### 2. 投稿・査読プロセスの電子化

Advanced Robotics のインパクトファクタを向上させ魅力ある欧文誌に育てるためには，迅速な査読プロセスの実現が読者に対しても著者に対しても最大のサービス提供になるとの認識のもと，昨年に引き続き査読プロセスの見直しを続けて，本年度は電子化を推進して郵送によるオーバーヘッドを削減することで更なる査読期間短縮の実現を目指した。

そのために欧文誌委員会内に電子化 WG を設置し，九州大学の倉爪亮先生と東京工業大学の太田祐介先生の多大なるご尽力により，ホームページを活用して電子的に論文投稿および査読プロセスを行うことができる新ホームページの構築を行い，2005年1月1日から運用を開始した。また，この電子化の作業に伴って欧文誌のホームページのリニューアルを行うとともに，今まで明文化されていなかった投稿・査読プロセスの作業マニュアルを整備した。

### 3. 企画/編集/発行作業

昨年までの査読プロセスの効率化を継続して，公式にはホームページ上で20週間と謳っているが，内部的には15週間で投稿から最初の査読結果を著者に返却する努力を続けて，ほとんどの論文についてのスケジュールで査読プロセスが進みつつある。一般投稿論文数(特集論文以外の論文数)が2003年度の75本から，2004年度には110本に増加した。そのため掲載待ちの一般投稿論文が増えており，Vol. 19 に掲載する一般



投稿論文がほぼ決定済みで掲載まで約1年待ちという状況となっている。そのため、欧文誌発行の共同事業者である Brill/VSP 社と増ページ交渉を開始した。

#### 4. 国際学術誌としての認知度と評価の向上

Institute for Scientific Information (ISI) 社の Citation Index の評価 (インパクトファクタ) を高めるためには、被引用数を増やすことが重要である。そのため、特集号にはクオリティの高いサーベイ論文を掲載していくこととし、Web ページに論文引用を容易にするためのデータを掲載した。また、昨年からの課題であった分野分類リストに関して議論を重ねて第1版として完成させた。ホームページに分野分類リストを掲載して Advanced Robotics が投稿を期待している新しい分野を示すとともに、分野別のインデックスリストとして活用している。

一般論文の投稿件数が毎年増加していることから、Advanced Robotics は国際的な学術論文誌としての認知がますます高まっている。欧文誌に掲載されることが、各論文執筆者の業績評価につながる指標 (Citation Index など) 獲得の点で有利なことを今後積極的にアピールしていきたい。

#### 5. 欧文誌編集委員会の国際化

昨年度に引き続き、主要な国際会議 (ICRA 2004, IROS 2004) に合わせて国際編集委員会を開催した。現在、19名の方に国際編集委員をお願いしている。その内訳は米国5名、欧州5名、韓国4名、アジア5名という構成である。国際編集委員に特集号の Guest Editor を依頼して国際化を進めている。

#### V 企 画

##### 1. 研究調査活動 (定款第5条3号)

- ・ロボット聴覚研究専門委員会 (委員長: 奥乃 博, 2003.7 発足)
  - ・学術講演会調査研究委員会 (委員長: 小林 宏, 2003.11 発足)
- 平成16年度に以下の調査・研究専門委員会を設置した。
- ・サービスロボット用安全認証研究専門委員会 (委員長: 梅谷陽二, 2004.1 発足)
  - ・安全回復ロボティクス研究専門委員会 (委員長: 新井健生, 2004.4 発足)

##### 2. 規約等の制定・整備

規約等の改訂はなし。Web上の規約集の改訂を行い、最新のものにした。

##### 3. 表彰等 (定款第5条4号)

2004年9月開催の第22回学術講演会において、以下の論文賞4件、実用化技術賞2件、研究奨励賞10件の贈賞を行った。また、ファナックFAロボット財団の論文賞に3件を推薦し、内1件が論文賞特別賞 (賞金300万円) を受賞した。

##### 【論文賞】

- ・新井史人 (名古屋大学), 小川昌伸 (名古屋大学), 福田敏男 (名古屋大学)  
「バイラテラル制御による非接触マイクロマニピュレーション レーザマイクロマニピュレータによるマイクロツール制御」  
(日本ロボット学会誌 第20巻第4号, pp. 417-424)
- ・中村仁彦 (東京大学), 岸 宏亮 ((株)日立製作所), 岡田昌史 (東京大学)  
「高速度カメラを用いた心拍動同期とそれを用いた心臓外科手術支援ロボットシステム」(日本ロボット学会誌 第21巻第4号, pp. 451-459)
- ・荒井裕彦 (産業技術総合研究所)  
「非ホロノミック系操作のためのヒューマンインタフェース」  
(日本ロボット学会誌 第21巻第5号, pp. 554-561)
- ・Ikuo Mizuuchi (University of Tokyo), Shigenori Yoshida (University of Tokyo), Masayuki Inaba (University of Tokyo), Hirochika Inoue (University of Tokyo)  
「The development and control of flexible spine for a human form robot」  
(Advanced Robotics Vol. 17, No. 2, pp. 149-196)

##### 【実用化技術賞】

- ・木村博志, 松岡 博, 森 芳弘, 近藤禎樹 ((株)デンソー), 神原 聡 ((株)デンソーウェーブ)  
「多機種の製品に適用可能な高速検査ロボットシステム」

- ・村瀬有一, 永嶋史朗, 安川祐介, Zaier Riadh, 境 克司 ((株)富士通研究所), 木村公一, 館野茂夫, 石川日吉, 萩野慶太 (富士通オートメーション(株))  
「小型ヒューマノイドロボットプラットフォーム HOAP 1, 2 および NeuROMA」

##### 【研究奨励賞】

- ・上田隆一 (東京大学大学院 工学系研究科 精密機械工学専攻)  
「ベクトル量子化による状態・行動地図の圧縮」  
(第8回ロボティクスシンポジウム)
  - ・鏡 慎吾 (東京大学大学院 情報理工学系研究科 システム情報学専攻)  
「通信遅延を考慮したセンサ選択手法」 (第21回学術講演会)
  - ・神田岳文 (岡山大学 工学部 システム工学科)  
「微細加工による直径0.8mmの円筒型圧電素子を用いたマイクロ超音波モータ」 (第21回学術講演会)
  - ・武居直行 (大阪大学大学院 工学研究科 電子制御機械工学専攻)  
「片側パターン電極によるER流体ダンパの粘性概算法の提案」  
(第8回ロボティクスシンポジウム)
  - ・田所直樹 (茨城大学大学院 理工学系研究科 システム工学専攻)  
「蛇型ロボットの斜面蛇行移動体形」 (第21回学術講演会)
  - ・西川員史 (早稲田大学大学院 理工学研究科)  
「発話ロボットの柔軟舌形状のモデル化および音響シミュレータの開発」  
(第21回学術講演会)
  - ・濱本将樹 (シャープ(株) 技術本部 デバイス研究所)  
「流体・構造連成有限要素法による羽ばたき飛行の free flight 解析」  
(第21回学術講演会)
  - ・前田雄介 (東京大学大学院 工学系研究科)  
「グラスプレス・マニピュレーションのためのロボット指の動作計画」  
(第8回ロボティクスシンポジウム)
  - ・宮田なつき (独立行政法人 産業技術総合研究所 デジタルヒューマン研究ラボ)  
「医用画像を用いた手部リンク構造導出手法の検討」  
(第21回学術講演会)
  - ・毛利哲也 (岐阜大学 工学部)  
「ロボットのための省配線システム」 (第21回学術講演会)
- ##### 【ファナックFAロボット財団論文賞特別賞】
- ・上田 淳 (奈良先端科学技術大学院大学), 吉川恒夫 (京都大学)  
「柔軟ベースを持つマニピュレータの振動モード補償器によるロバスト性の向上」 (日本ロボット学会誌 第21巻第4号, pp. 359-400)
- #### 4. 国際関連 (定款第5条1号, 5号)
- 本会に関連する国際会議を共催/協賛した。
- 主な共催会議:
- (a) 第9回人工生命とロボットに関するシンポジウム (AROB 2004)  
期日: 2004年1月28日~30日, 会場: 別府, 日本
  - (b) 7th International Symposium on Distributed Autonomous Robotic Systems (DARS 2004)  
期日: 2004年6月23日~25日, 会場: Toulouse, フランス
  - (c) The Japan USA Symposium on Flexible Automation (2004 JUSFA)  
期日: 2004年7月17日~21日, 会場: デンバー, 米国
  - (d) 13th IEEE International Workshop on Robot and Human Interactive communication (RO-MAN 2004)  
期日: 2004年9月20日~22日, 会場: 倉敷, 日本
  - (e) 2004 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (IROS 2004)  
期日: 2004年9月28日~10月2日, 会場: 仙台, 日本
  - (f) 2004 国際シンポジウム マイクロメカトロニクスとヒューマンサイエンス及び国際メイズコンテスト (MHS 2004)  
期日: 2004年10月31日~11月3日, 会場: 名古屋, 日本

【第2号議案】

平成16年度収支決算書報告

I 一般会計

平成16年度収支計算書

平成16年1月1日から平成16年12月31日まで

収入の部 (単位：円)

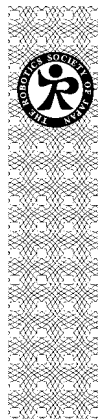
科 目	決 算 額
1. 基本財産運用収入	6,317
基本財産利息収入	6,317
2. 会費収入	42,499,000
正会員会費	29,870,000
学生会員会費	4,549,000
賛助会員会費	8,080,000
3. 入金収入	473,000
正会員入金	123,000
学生会員入金	350,000
4. 事業収入	33,191,728
会誌掲載料	16,756,425
欧文誌事業	1,000,000
学術講演会	13,209,303
講習会	876,000
公開シンポジウム	1,350,000
5. 諸収入	12,357,455
受取利息	498
広告料収入	7,934,157
資料頒布収入	2,357,985
雑収入	2,064,815
当期収入合計(A)	88,527,500
前期繰越収支差額	34,197,986
収入合計(B)	122,725,486

注1. 公開シンポジウム収入は、文部科学省からの交付金である。

支出の部

(単位：円)

科 目	決 算 額
1. 事業費	41,383,359
会誌事業費	25,061,414
出版費	(16,930,221)
郵送費	(5,406,481)
編集費	(1,928,716)
電子化準備委員会費	(795,996)
欧文誌事業費	4,142,254
編集費	(829,254)
業務委託費	(2,640,000)
出版費	(673,000)
学術講演会開催費	9,101,739
講習会開催費	453,808
公開シンポジウム開催費	1,350,000
専門委員会費	200,000
研究専門委員会費	(200,000)
調査専門委員会費	(0)
広告制作費	624,055
表彰費	450,089
2. 管理費	33,168,029
総給料手当	792,786
臨時雇賃金	16,336,591
福利厚生費	1,508,452
租税公課	1,326,266
旅費交通費	566,500
通信運搬費	114,840
備品消耗品費	701,463
会議費	446,379
印刷製本費	244,232
光熱水料費	976,152
賃借料	349,197
諸借入金	7,104,298
雑費	1,240,960
会費収納費	792,584
雑損失	667,329
3. 雑損失	845,200
雑損失	845,200
4. 特定預金支出	807,162
退職給与引当預金支出	807,162
5. 繰入金支出	8,077,168
学術集会開催基金繰入金支出	4,177,168
刊行物発行基金繰入金支出	3,900,000
6. 予備費	0
予備費	0
当期支出合計(C)	84,280,918
当期収支差額(A)-(C)	4,246,582
次期繰越収支差額(B)-(C)	38,444,568



## 正味財産増減計算書

平成 16 年 1 月 1 日から平成 16 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	金 額		
増加の部			
1. 資産増加額			
当期収支差額	4,246,582		
退職給与引当預金増加額	807,207	5,053,789	
増加額合計			5,053,789
減少の部			
2. 負債増加額			
退職給与引当金繰入額		807,207	
減少額合計			807,207
当期正味財産増加額			4,246,582
前期繰越正味財産額			58,685,386
期末正味財産合計額			62,931,968

## 貸借対照表

平成 16 年 12 月 31 日現在

(単位：円)

資 産 の 部		負債・正味財産の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
(流動資産)	( 67,014,328 )	(流動負債)	( 28,569,760 )
現 金	622,908	未 払 金	782,000
普 通 預 金	36,732,018	前 受 会 費	25,329,790
振 替 預 金	22,386,337	前 受 金	353,860
郵 便 預 金	1,000,076	預 り 金	1,294,110
未 収 会 費	1,966,000	仮 受 金	810,000
未 収 金	3,174,598	(固定負債)	( 5,559,622 )
前 払 金	994,391	退職給与引当金	5,559,622
立 替 金	138,000		
(固定資産)	( 30,047,022 )	(正味財産)	( 62,931,968 )
[基本財産]	( 21,000,000 )	正 味 財 産	62,931,968
定期預金	21,000,000	[うち基本金]	[ 21,000,000 ]
[有形固定資産]	( 834,300 )	[当期正味財産増加額]	[ 4,246,582 ]
什器備品	834,300		
[その他の固定資産]	( 8,212,722 )		
退職給与引当預金	5,559,622		
電話加入権	153,100		
保証金	2,500,000		
資産合計	97,061,350	負債・正味財産合計	97,061,350

## II 刊行物発行基金

## 平成 16 年度収支計算書

平成 16 年 1 月 1 日から平成 16 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
刊行物発行基金繰入	3,909,184	受 取 利 息	9,184
		一般会計繰入金収入	3,900,000
		前期繰越収支差額	0
合 計	3,909,184	合 計	3,909,184

注 前期繰越収支差額 37,036,086 円は、刊行物発行基金の残高であるので資金として扱わず、0 円になる。

## 正味財産増減計算書

平成 16 年 1 月 1 日から平成 16 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	金 額		
増加の部			
1. 資産増加額			
刊行物発行基金繰入	3,909,184	3,909,184	
増加額合計			3,909,184
当期正味財産増加額			3,909,184
前期繰越正味財産額			37,036,086
期末正味財産合計額			40,945,270

## 貸借対照表

平成 16 年 12 月 31 日現在

(単位：円)

資 産 の 部		負債・正味財産の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
(固定資産)	40,945,270	(正味財産)	40,945,270
その他の固定資産	40,945,270	正味財産	40,945,270
普通預金	20,939,270	(当期正味財産増加額)	( 3,909,184 )
定期預金	20,006,000		
合 計	40,945,270	合 計	40,945,270

III 学術集会開催基金

平成 16 年度収支計算書

平成 16 年 1 月 1 日から平成 16 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
学術集会開催基金繰入	4,183,377	受 取 利 息	6,209
		一般会計繰入金収入	4,177,168
		前期繰越収支差額	0
合 計	4,183,377	合 計	4,183,377

注 前期繰越収支差額 34,279,692 円は、学術集会開催基金の残高であるので資金として扱わず、0 円になる。

正味財産増減計算書

平成 16 年 1 月 1 日から平成 16 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	金 額	
増加の部		
1. 財産増加額		
学術集会開催基金繰入	4,183,377	4,183,377
増加額合計		4,183,377
当期正味財産増加額		4,183,377
前期繰越正味財産額		34,279,692
期末正味財産合計額		38,463,069

貸借対照表

平成 16 年 12 月 31 日現在

(単位：円)

資 産 の 部		負 債 ・ 正 味 財 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
(固定資産)	38,463,069	(正味財産)	38,463,069
その他の固定資産	38,463,069	正 味 財 産	38,463,069
普通預金	15,388,077	(当期正味財産増加額)	(4,183,377)
定期預金	23,074,992		
合 計	38,463,069	合 計	38,463,069

IV 国際会議および共催会議開催基金

平成 16 年度収支計算書

平成 16 年 1 月 1 日から平成 16 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
表 彰 費	292,000	受 取 利 息	373
雑 費	1,500	雑 収 入	4,667,609
国際会議及び共催会議開催基金繰入	4,374,482	前期繰越収支差額	0
合 計	4,667,982	合 計	4,667,982

注 前期繰越収支差額 12,424,058 円は、国際会議および共催会議開催基金の残高であるので資金として扱わず、0 円になる。

正味財産増減計算書

平成 16 年 1 月 1 日から平成 16 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	金 額	
増加の部		
1. 資産増加額		
国際会議及び共催会議開催基金繰入	4,374,482	4,374,482
増加額合計		4,374,482
当期正味財産増加額		4,374,482
前期繰越正味財産額		12,424,058
期末正味財産合計額		16,798,540

貸借対照表

平成 16 年 12 月 31 日現在

(単位：円)

資 産 の 部		負 債 ・ 正 味 財 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
(固定資産)	16,798,540	(正味財産)	16,798,540
その他の固定資産	16,798,540	正 味 財 産	16,798,540
普通預金	16,098,540	(当期正味財産増加額)	(4,374,482)
仮 払 金	700,000		
合 計	16,798,540	合 計	16,798,540



## V 総 括 表

平成 16 年度収支計算書総括表  
平成 16 年 1 月 1 日から平成 16 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	合 計	一般会計	刊行物 発行基金	学術集会 開催基金	国際会議及び 共催会議開催基金	内部取引 消却
収入の部						
基本財産運用収入	6,317	6,317				
会 費 収 入	42,499,000	42,499,000				
入 会 金 収 入	473,000	473,000				
事 業 収 入	33,191,728	33,191,728				
諸 収 入	17,040,830	12,357,455	9,184	6,209	4,667,982	
一般会計繰入金	0	0	3,900,000	4,177,168		8,077,168
当期収入合計	93,210,875	88,527,500	3,909,184	4,183,377	4,667,982	8,077,168
前期繰越収支差額	34,197,986	34,197,986	0	0	0	0
収入合計	127,408,861	122,725,486	3,909,184	4,183,377	4,667,982	8,077,168
支出の部						
事 業 費	41,676,859	41,383,359			293,500	
管 理 費	33,168,029	33,168,029				
雑 損 失	845,200	845,200				
特定預金支出	807,162	807,162				
繰入金支出	0	8,077,168				8,077,168
予 備 費	0	0				
刊行物発行基金繰入			3,909,184			
学術集会開催基金繰入				4,183,377		
国際会議及び共催 会議開催基金繰入					4,374,482	
当期支出合計	97,041,461	84,280,918	3,909,184	4,183,377	4,667,982	8,077,168
当期収支差額	4,246,582	4,246,582	0	0	0	0
次期繰越収支差額	38,444,568	38,444,568	0	0	0	0

平成 16 年度正味財産増減計算書総括表  
平成 16 年 1 月 1 日から平成 16 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	合 計	一般会計	刊行物 発行基金	学術集会 開催基金	国際会議及び 共催会議開催基金
増加の部					
資 産 増 加 額	17,520,832	5,053,789	3,909,184	4,183,377	4,374,482
増加額合計	17,520,832	5,053,789	3,909,184	4,183,377	4,374,482
減少の部					
負 債 増 加 額	807,207	807,207	0	0	0
減少額合計	807,207	807,207	0	0	0
当期正味財産増加額	16,713,625	4,246,582	3,909,184	4,183,377	4,374,482
前期繰越正味財産額	142,425,222	58,685,386	37,036,086	34,279,692	12,424,058
期末正味財産合計額	159,138,847	62,931,968	40,945,270	38,463,069	16,798,540

平成 16 年度借借対照表総括表

平成 16 年 12 月 31 日現在

(単位：円)

科 目	合 計	一般会計	刊行物 発行基金	学術集会 開催基金	国際会議及び 共催会議開催基金
資産の部					
流 動 資 産	67,014,328	67,014,328			
固 定 資 産	126,253,901	30,047,022	40,945,270	38,463,069	16,798,540
(うち基本財産)	(21,000,000)	(21,000,000)			
資産合計	193,268,229	97,061,350	40,945,270	38,463,069	16,798,540
負債の部					
流 動 負 債	28,569,760	28,569,760			
固 定 負 債	5,559,622	5,559,622			
負債合計	34,129,382	34,129,382	0	0	0
正味財産の部					
正 味 財 産	159,138,847	62,931,968	40,945,270	38,463,069	16,798,540
負債及び正味財産合計	193,268,229	97,061,350	40,945,270	38,463,069	16,798,540

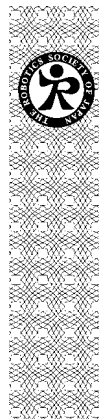
## お 知 ら せ

## 財 産 目 録

平成 16 年 12 月 31 日現在

(単位：円)

科 目	金 額	
資産の部		
1. 流動資産		
現金預金		
現金 手許有高	622,908	
普通預金 東京三菱銀行本店	13,026,165	
〃 みずほ銀行本郷支店	10,980,969	
〃 みずほ銀行本郷支店	3,290,810	
〃 りそな銀行本郷支店	9,434,074	
振替預金 本郷一郵便局	22,386,337	
郵便預金 本郷一郵便局	1,000,076	
未収会費 会費 平成 16 年度分	1,966,000	
未収金 学会誌投稿料・広告料他	3,174,598	
前払金 平成 17 年 1 月分事務所家賃他	994,391	
立替金 欧文誌購読料	138,000	
流動資産合計		67,014,328
2. 固定資産		
(1) 基本財産		
定期預金 基本財産(東京三菱銀行 自由金利型定期)	21,000,000	
基本財産合計		21,000,000
(2) 有形固定資産		
什器備品 事務用器具備品	834,300	
有形固定資産合計		834,300
(3) その他の固定資産		
退職給与引当預金 東京三菱銀行春日町支店	5,559,622	
電話加入権 2 本	153,100	
保証金 賃貸借契約保証金	2,500,000	
刊行物発行基金 普通預金 みずほ銀行本郷支店	11,889,040	
〃 〃 三井住友銀行小石川支店	9,050,230	
〃 定期預金 東京三菱銀行本店	10,000,000	
〃 〃 りそな銀行本郷支店	10,006,000	
学術集会開催基金 普通預金 〃	14,310,759	
〃 〃 三菱信託銀行本店営業部	1,077,318	
〃 定期預金 東京三菱銀行本店	10,074,992	
〃 〃 三菱信託銀行本店営業部	13,000,000	
国際会議および 普通預金 りそな銀行本郷支店	16,098,540	
共催会議開催基金 仮払金 IROS 2004 分担当	700,000	
その他の固定資産合計		104,419,601
固定資産合計		126,253,901
資産合計		193,268,229
負債の部		
1. 流動負債		
未払金 会計顧問料他	782,000	
前受会費 会費前受分	25,329,790	
前受金 学会誌広告料	353,860	
預り金 源泉所得税	268,235	
〃 住民税	50,900	
〃 社会保険料	496,975	
〃 欧文誌購読料	478,000	
仮受金 岐阜県負担金他	810,000	
流動負債合計		28,569,760
2. 固定負債		
退職給与引当金 退職給与分	5,559,622	
固定負債合計		5,559,622
負債合計		34,129,382
正味財産		159,138,847





## 監 査 報 告 書

社団法人 日本ロボット学会  
会 長 吉 川 恒 夫 殿

私共監事2名は、この総会資料に記載されている平成16年度の事業報告書ならびに同年度の一般会計、刊行物発行基金、学術集会開催基金、国際会議および共催会議開催基金に関する収支計算書、正味財産増減計算書、賃借対照表および財産目録などにつき監査を実施しました。

監査の結果、いずれも一般に公正妥当と認められる公益法人の会計基準に準拠し、前年度と同一の会計方針を適用しており、また、定款の定めに従って実施しているものと認めます。

以上

平成17年3月2日  
社団法人 日本ロボット学会  
監事 江 尻 正 員 ㊞  
監事 大 島 正 毅 ㊞

## 【第3号議案】

平成17年度 事業計画案  
(自平成17年1月1日 至平成17年12月31日)

- I 庶 務
1. 第23回総会
    - 会 期：平成17年3月9日(水)
    - 会 場：本郷瀬川ビル
  2. 委員会活動
    - 下記の委員会を開催する。
 

(1) 会誌編集委員会	(委員長：淺間 一)
(2) 欧文誌委員会	(委員長：山海嘉之)
(3) 事業計画委員会	(委員長：堀 俊夫)
(4) 国際委員会	(委員長：下倉健一郎)
(5) 第23回学術講演会実行委員会	(委員長：吉田和夫)
(6) 第19回論文賞選考委員会	(委員長：佐藤知正)
(7) 第20回研究奨励賞選考委員会	(委員長：内山 隆)
(8) 第21回研究奨励賞選考委員会	(委員長：和田充雄)
(9) 第10回実用化技術賞選考委員会	(委員長：和田充雄)
(10) 出版事業委員会	(委員長：久保田孝)
(11) 電子化運営委員会	(委員長：佐藤知正)
(12) 国際化検討委員会	(委員長：和田充雄)
(13) アドバイザリーボード	(委員長：内山 隆)
(14) 将来ビジョン策定委員会	(委員長：内山 隆)
(15) 事務局体制検討委員会	(委員長：佐藤知正)
  3. 役員・評議員の選出
    - 平成17年度の理事・監事、ならびに評議員を選出する。
  4. フェロー、名誉会員の選任
    - フェロー、名誉会員の推薦を行い選任する。
  5. 学会の基盤強化
    - 会員数の増強を図るため、広報活動を重視し、入会勧誘を引き続き推進する。
  6. 電子化運営委員会
    - (1) Webコンテンツを充実させ、学会の電子化・情報化を進める。
    - (2) 学会内イントラを拡充する。
    - (3) データベース機能の強化をはかる。
  7. 事務局
    - 学会の将来ビジョンの考察を深め、中長期的な事務局体制について検討を進める。
- II 事 業 (定款第5条1号)
1. 学術講演会・シンポジウム等
    - (1) 第23回学術講演会
      - 期 日：2005年9月15日(木)~17日(土)
      - 会 場：慶應義塾大学日吉キャンパス
      - 実行委員長：吉田和夫(慶應義塾大学)
      - プログラム委員長：前野隆司(慶應義塾大学)
  2. ロボット工学セミナー
    - (1) 第29回シンポジウム「ヒューマノイドの新展開」
      - 期 日：2005年3月2日(水)
      - 会 場：産業技術総合研究所臨海副都心センター
    - (2) 第30回シンポジウム「愛知万博ロボット特集(その1) 実用化システム」
      - 期 日：2005年4月28日(木)
      - 会 場：東京工業大学
    - (3) 第31回シンポジウム「平成17年度 ロボットの作り方セミナー」
      - 期 日：2005年5月25日(水)~26日(木)
      - 会 場：東京工業大学
    - (4) 第32回シンポジウム「便利なRTミドルウェアの使い方」
      - 期 日：2005年7月(予定)
      - 会 場：工学院大学(予定)

- (5) 第33回シンポジウム「医療支援ロボット～基礎から臨床最前線～」  
期 日：2005年10月(予定)  
会 場：工学院大学(予定)
- (6) 第34回シンポジウム「愛知万博ロボット特集(その2) プロトタイプ」  
期 日：2005年11月(予定)  
会 場：工学院大学(予定)

## 3. 共催・協賛等

本会に関連する国内行事の共催・協賛・後援について審査を行う。

- (1) 第10回ロボティクスシンポジウム  
期 日：2005年3月14日(月)～15日(火)  
会 場：箱根ホテル小湧園(足柄下郡箱根町)  
実行委員長：國井康晴(中央大学)  
プログラム委員長：久保田孝(宇宙航空研究開発機構)
- (2) 第17回知能ロボットコンテスト・フェスティバル  
期 日：2005年6月25日(土)～26日(日)  
会 場：仙台市科学館(仙台市青葉区)  
主 催：ロボット競技会実行委員会、メカトロで遊ぶ会  
実行委員長：中野榮二(東北大学)
- (3) 第5回レスキューロボットコンテスト  
期 日：2005年8月5日(金)～7日(日)  
会 場：神戸国際展示場(神戸市中央区)  
主 催：ロボット×レスキュー2005実行委員会(レスキューロボットコンテスト実行委員会、兵庫県、神戸市、読売新聞大阪本社)

## 4. 出版事業

「新版ロボット工学ハンドブック」の発行を2005年5月末に予定している。

「日本ロボット学会誌会員名簿(2005年)」の発行を2005年9月に予定している。

## III 学 会 誌(定款第5条2号)

学会誌第23巻第1号より第8号を1月, 3月, 4月, 5月, 7月, 8月, 10月, 11月に刊行し, 会員に配布する。各号の特集テーマは以下のものを予定している。

- 第23巻1号 ロボティクスのための生命理解  
第23巻2号 ロボット研究の商品化  
第23巻3号 進化するビジョン  
第23巻4号 ロボット今昔物語  
第23巻5号 世界のロボットプロジェクトとプロジェクト投資戦略(仮)  
第23巻6号 人間技能の数理モデル(仮)  
第23巻7号 ネットワークロボット(仮)  
第23巻8号 万博ロボット特集(仮)

平成17年度は, 16年度に引続き, 会誌編集プロセス, 査読プロセスの両者の抜本的な見直しを行い, それぞれの作業のさらなる効率化, 高速化を図る。また論文査読については, 新査読体制作りと, 規定類の整備などを行い, アソシエートエディタ制による論文査読プロセスの試験的運用を開始する。さらに, 学術講演会と連動させた特急査読方式, 他の学会で好評な新査読方式など, 新戦略の試行も検討し, 査読システム改革のアピールを図る。

同時に, 電子化準備委員会との連携を強化し, 情報発信としての会誌ホームページの充実だけでなく, 会誌編集, 査読プロセスなど総合的な電子化による効率化を進める。

## IV 欧 文 誌(定款第5条2号)

## 1. 欧文誌 Advanced Robotics の発行計画

下記のとおり, 2005年度においては Vol.19 の年10回の発行を計画している。

- No.1 05.1 発行予定 一般論文  
No.2 05.2 発行予定 一般論文

- No.3 05.4 発行予定 Rescue Robotics (1)  
No.4 05.5 発行予定 一般論文  
No.5 05.6 発行予定 Compliant Motion Planning and Control  
No.6 05.7 発行予定 Cybernoid・一般論文  
No.7 05.8 発行予定 一般論文  
No.8 05.9 発行予定 Rescue Robotics (2)  
No.9 05.10 発行予定 一般論文  
No.10 05.11 発行予定 IROS 2004

## 2. 欧文誌の内容向上のための努力

4年以内に, ロボット関係の Journal の中で5位以内のインパクトファクタ( ISI 社の引用件数ランキング)を獲得することを引き続き目標とする。学会誌の「お知らせ」のページ露出度が低いので, Advanced Robotics のアブストラクトを掲載した別冊子(二つ折りリーフレット程度。ファイリングするだけでアブストラクト集ができる)を作成し, 学会誌に挟み込むなど, 宣伝活動の強化を検討していく。

## 3. 国際化に向けての活動

国際化検討委員会と歩調を合わせ, Advanced Robotics を活用した日本ロボット学会の国際化を推進する。具体的には, これまでの活動に加えて, 外国人会員の獲得, 外国人の購読数・引用数・投稿数の増加のための努力を行う。特に, 電子化の推進により国際的な査読依頼が容易になるので, 海外への査読依頼を増加させて知名度の向上を目指していく。

引き続き主要な国際会議(ICRA 2005, IROS 2005)に合わせて国際編集委員会を開催する。

## 4. 共同事業者である Brill/VSP 社と交渉

欧文誌発行の共同事業者である Brill/VSP 社と発行条件に関して交渉を行う予定である。具体的には, 掲載論文数を増やすための増ページ, Institute 価格の設定, Online 購読者の設定, アジア諸国のロボット関係学会との連携などの諸問題について交渉する予定である。2006年の Vol.20 から年間12号の発行体制の実現を目指す。

## V 企 画

## 1. 調査・研究専門委員会活動(定款第5条3号)

前年度より継続の以下の調査・研究専門委員会による委員会調査活動を行う。

## 2004年度から継続の研究専門委員会

- ・ロボット聴覚研究専門委員会 (委員長:奥乃 博, 2003.7 発足)
- ・学術講演会調査研究委員会 (委員長:小林 宏, 2003.11 発足)
- ・サービスロボット用安全認証研究専門委員会 (委員長:梅谷陽二, 2004.1 発足)
- ・安全回復ロボティクス研究専門委員会 (委員長:新井健生, 2004.4 発足)

また, 本年度より以下の研究専門委員会を発足させる。

- ・人と機械のライフログコンテンツ研究専門委員会 (委員長:佐藤知正, 2005.1 発足)

なお, 研究専門委員会の設置は, 会員からの申請により当学会にとって必要な研究とそれに伴う調査・研究を行うことを目的として承認される。申請時期は, 1月発足で前年9月末, 7月発足で当年3月末までであるので, 積極的な申請をうながしていきたい。

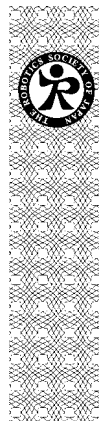
## 2. 表彰(定款第5条4号)

第23回学術講演会において, 論文賞, 実用化技術賞および研究奨励賞の表彰を行う。

## 3. 国際関連(定款第5条1号, 5号)

主な共催会議予定:

- (a) 第10回人工生命とロボットに関するシンポジウム(AROB 2005)  
期日:2005年2月4日～6日, 会場:大分, 日本
- (b) 2005 IEEE International Conference on Intelligent Mechatronics and Automation (IEEE ICIMA 2005)  
期日:2005年7月29日～8月1日, 会場:Niagara Falls, カナダ
- (c) IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (IROS 2005)  
期日:2005年8月2日～6日, 会場:Edmonton, カナダ



お 知 ら せ

( d ) 14 th IEEE International Workshop on Robot and Human Interactive Communication

期日：2005年8月13日～15日，会場：Nashville，米国

( e ) International Symposium on Robotics ( ISR )

期日：2005年11月29日～12月1日，会場：東京，日本

4 . プロジェクト企画

公的機関などへの提案を行うべく，日本ロボット工業会と共同で，将来立ち上げるべきロボット技術関連プロジェクトの企画・検討を行う。

【第4号議案】

平成17年度収支予算書(案)

I 一般会計

平成17年1月1日から平成17年12月31日まで

収入の部

(単位：円)

科 目	予 算 額
1. 基本財産運用収入	6,000
基本財産利息収入	6,000
2. 会費収入	42,590,000
正会員会費	30,030,000
学生会員会費	4,560,000
賛助会員会費	8,000,000
3. 入会金収入	470,000
正会員入会金	130,000
学生会員入会金	340,000
4. 事業収入	30,790,000
会誌掲載料	15,000,000
欧文誌事業	1,000,000
学術講演会	13,110,000
講習会	1,680,000
公開シンポジウム	0
5. 諸収入	9,230,000
利息収入	0
広告料収入	5,000,000
資料頒布収入	3,230,000
雑収入	1,000,000
当期収入合計(A)	83,086,000
前期繰越収支差額	38,444,568
収入合計(B)	121,530,568

注1. 借入金限度額 0円

支出の部		(単位：円)
科 目	予 算 額	
1. 事業費	47,070,000	
会誌事業費	26,300,000	
出版費	( 16,500,000)	
郵送費	( 5,300,000)	
編集費	( 3,000,000)	
電子化運営委員会費	( 1,500,000)	
欧文誌事業費	4,160,000	
編集費	( 800,000)	
業務委託費	( 2,760,000)	
出版費	( 600,000)	
学術講演会開催費	13,110,000	
講習会開催費	1,600,000	
公開シンポジウム開催費	0	
専門委員会費	400,000	
研究専門委員会費	( 300,000)	
調査専門委員会費	( 100,000)	
広告制作費	500,000	
表彰費	1,000,000	
2. 管理費	42,700,000	
総給料手当	800,000	
臨時雇賃金	22,170,000	
福利厚生費	1,000,000	
旅費交通費	2,500,000	
通信運搬費	180,000	
備品消耗品費	1,200,000	
会議費	1,000,000	
印刷製本費	600,000	
光熱水料費	1,000,000	
賃借料	500,000	
諸謝金	7,200,000	
租税公課	1,300,000	
雑費	500,000	
会費収納費	2,000,000	
雑損失	750,000	
3. 雑損失	1,300,000	
雑損失	1,300,000	
4. 特定預金支出	1,000,000	
退職給与引当預金支出	1,000,000	
5. 繰入金支出	0	
学術集会開催基金繰入金支出	0	
刊行物発行基金繰入金支出	0	
6. 予備費	1,000,000	
予備費	1,000,000	
当期支出合計(C)	93,070,000	
当期収支差額(A)-(C)	9,984,000	
次期繰越収支差額(B)-(C)	28,460,568	

注1. 債務負担額 0円

II 刊行物発行基金

平成17年度刊行物発行基金収支予算書(案)

平成17年1月1日から平成17年12月31日まで

収入の部 (単位：円)

科 目	予 算 額
1 事業収入	0
2 利息収入	15,000
3 雑収入	0
4 一般会計より繰入	0
当期収入合計	15,000
前期繰越収支差額	0
収入合計	15,000

支出の部 (単位：円)

科 目	予 算 額
1 事業費	0
2 雑損失	0
3 刊行物発行基金繰入	15,000
当期支出合計	15,000
当期収支差額	0
次期繰越収支差額	0

III 学術集会開催基金

平成17年度学術集会開催基金収支予算書(案)

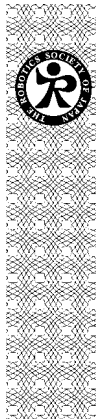
平成17年1月1日から平成17年12月31日まで

収入の部 (単位：円)

科 目	予 算 額
1 事業収入	0
2 利息収入	15,000
3 雑収入	0
4 一般会計より繰入	0
当期収入合計	15,000
前期繰越収支差額	0
収入合計	15,000

支出の部 (単位：円)

科 目	予 算 額
1 事業費	0
2 雑損失	0
3 学術集会開催基金繰入	15,000
当期支出合計	15,000
当期収支差額	0
次期繰越収支差額	0



お 知 ら せ

IV 国際会議および共催会議開催基金

平成 17 年度国際会議および共催会議開催基金収支予算書(案)

平成 17 年 1 月 1 日から平成 17 年 12 月 31 日まで

収入の部 (単位: 円)

科 目	予 算 額
1 事業収入	0
2 利息収入	1,000
3 雑収入	0
4 一般会計より繰入	0
5 国際会議開催基金取崩収入	819,000
当期収入合計	820,000
前期繰越収支差額	0
収入合計	820,000

支出の部 (単位: 円)

科 目	予 算 額
1 事業費	820,000
表彰費	300,000
国際会議派遣費	500,000
雑費	20,000
2 雑損失	0
当期支出合計	820,000
当期収支差額	0
次期繰越収支差額	0

V 総 括 表

平成 17 年度収支予算書総括表

平成 17 年 1 月 1 日から平成 17 年 12 月 31 日まで

(単位: 円)

科 目	合 計	一般会計	刊行物 発行基金	学術集会 開催基金	国際会議及び 共催会議開催基金
収入の部					
基本財産運用収入	6,000	6,000			
会 費 収 入	42,590,000	42,590,000			
入 会 金 収 入	470,000	470,000			
事 業 収 入	30,790,000	30,790,000			
諸 収 入	9,261,000	9,230,000	15,000	15,000	1,000
一般会計繰入金	0	0			
国際会議及び共催 会議開催基金取崩収入	819,000				819,000
当期収入合計	83,936,000	83,086,000	15,000	15,000	820,000
前期繰越収支差額	38,444,568	38,444,568	0	0	0
収 入 合 計	122,380,568	121,530,568	15,000	15,000	820,000
支出の部					
事 業 費	47,890,000	47,070,000			820,000
管 理 費	42,700,000	42,700,000			
雑 損 失	1,300,000	1,300,000			
特 定 預 金 支 出	1,000,000	1,000,000			
繰 入 金 支 出	0	0			
予 備 費	1,000,000	1,000,000			
刊行物発行基金繰入	15,000		15,000		
学術集会開催基金繰入	15,000			15,000	
当期支出合計	93,920,000	93,070,000	15,000	15,000	820,000
当期収支差額	9,984,000	9,984,000	0	0	0
次期繰越収支差額	28,460,568	28,460,568	0	0	0

【第 5 号議案】

個人会員除名処分の件

日本ロボット学会定款の第 11 条(2)に基づき除名処分を行う。  
除名対象者数を以下に示す。

正会員	46 名
学生会員	94 名
合 計	140 名